

總 第 二 〇 四 號

又於前 總務 四八八 號

陸軍省 送甲第二二二八 號

本初子身線外計時法、何に付運署ヲ以テ内閣ノ前案議ノ
義者大凡ヨリ其旨、根據成テ豫定ニ存テ入趣生
回春、付テ別務會議書内閣、可定忠ニ旨ヲ附申生
取討ル成也

昭和十九年六月廿六日

文部省總務局長 辻 新次

陸軍省總務局長 桂 太郎 啟

陸軍省

本初子午線及計時法之儀々付案議

去明治十七年米國に於て閣議シタル本初子午線及計時法
 高國公會へ本邦委員トシテ彼差遣候理科大學教員
 池大橋慶ヨリ同會以議之問ル意見書差出候に付先般
 認可ラレタリ内務陸軍海軍文部農商務逓信之省
 間ニ委員ヲ設テ該意見書審査セシメ候處今般
 紙之由該委員ヨリ申報有之候右議申報之次第
 へ逓當ト相認メ後ニ附公布相成候勅令案相添
 此致乞副議也

逓信大臣榎本武揚
 農商務大臣伯西公從道

1941

文部大臣 永田 有禮

海軍大臣 角 田 龍 彦

陸軍大臣 堀 賢 二 大 山 巖

内務大臣 沼 田 孫 吉 綱

内閣総理大臣 河 野 廣 文 敬

朕初子午線終被計算方及標準時ノ付テ裁可ニ爲之ヲ
公布セシム

御名 御璽

明治十九年九月日

内閣総理大臣

六省大臣

勅令 才 辨

一 英國グリニッチ天文臺子午儀ノ中心ヲ經過スル子午線ヲ以テ

終極ノ本初子午線トス

一 終極ノ本初子午線ヨリ起算ニ東西各百八十度ニ至リ東

端ヲ止トシ西端ヲ負トス

一 東経百五十度後ノ子午線ノ時ヲ以テ全國一般ノ標準時

ト定メ明治二十一年一月一日ヨリ之ヲ實行ス